

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部会報

Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists

第24号(2015年5月1日発行)

発行 日本臨床発達心理士会中国・四国支部
編集 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報編集委員会
事務局 〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科幼児教育学研究室
TEL:0824-22-7111(内線5680) FAX:0824-24-5261

目次

- 1 ご挨拶
- 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第13回総会のご案内(重要)
- 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第37回研修会のご案内
- 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第34回研修会ご報告
- 5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第35回研修会ご報告
- 6 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第36回研修会ご報告
- 7 支部よりお願い
- 8 編集後記



1 ご挨拶

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部
支部長・幹事 猪木省三

新緑の季節となりました。中国・四国支部の会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2003年4月に支部が発足して、早いもので12年が過ぎようとしております。この間、日本臨床発達心理士会の会員数は全国で約3500名となり、支部の会員数も250名を上回る規模となりました。これも、皆様からの多大なご支援、ご協力のたまものと感謝いたしております。

さて、今回の会報でご案内しております通り、県立広島大学で、来る5月31日(日)の13時から支部総会、続いて14時から支部研修会を開催いたします。支部総会は年に一度の支部会員の会合ですので、ぜひお出かけ下さり支部の活動についての意見交換、情報交換に参加いただきたいと思います。昨年度の活動報告・決算報告、本年度の活動計画・予算案の他に、今回は支部役員の改選を行います。

また9月5日・6日(土・日)に広島市の広島国際会議場で日本臨床発達心理士会第11回全国大会を開催いたします。全国大会は1000名規模の大きな大会となる見込みで、現在、中国・四国支部役員を中心とした準備委員会を組織して、開催の準備を始めているところです。多くの支部会員の皆様のご参加をお願い申し上げます。

さらに、2、3年来、大きな活動となっている公認心理師(仮称)国家資格化の問題もあります。現在、開会中の通常国会での法案提出に向けて活動が進んでいるようです。今後、支部のホームページ、メールなどを通じて、できるだけ情報をお知らせして参ります。

これからも、会員の皆様のご支援、ご協力、ご指導、ご鞭撻を、心よりお願い申し上げます。

2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第13回総会のご案内【重要】

2015年度中国・四国支部総会を次のように行います。あわせて第37回研修会も開催されます。ぜひご参加下さいませようご案内申し上げます。

1. 日 時 2015年5月31日(日)13:00～(1時間程度, 続いて研修会)

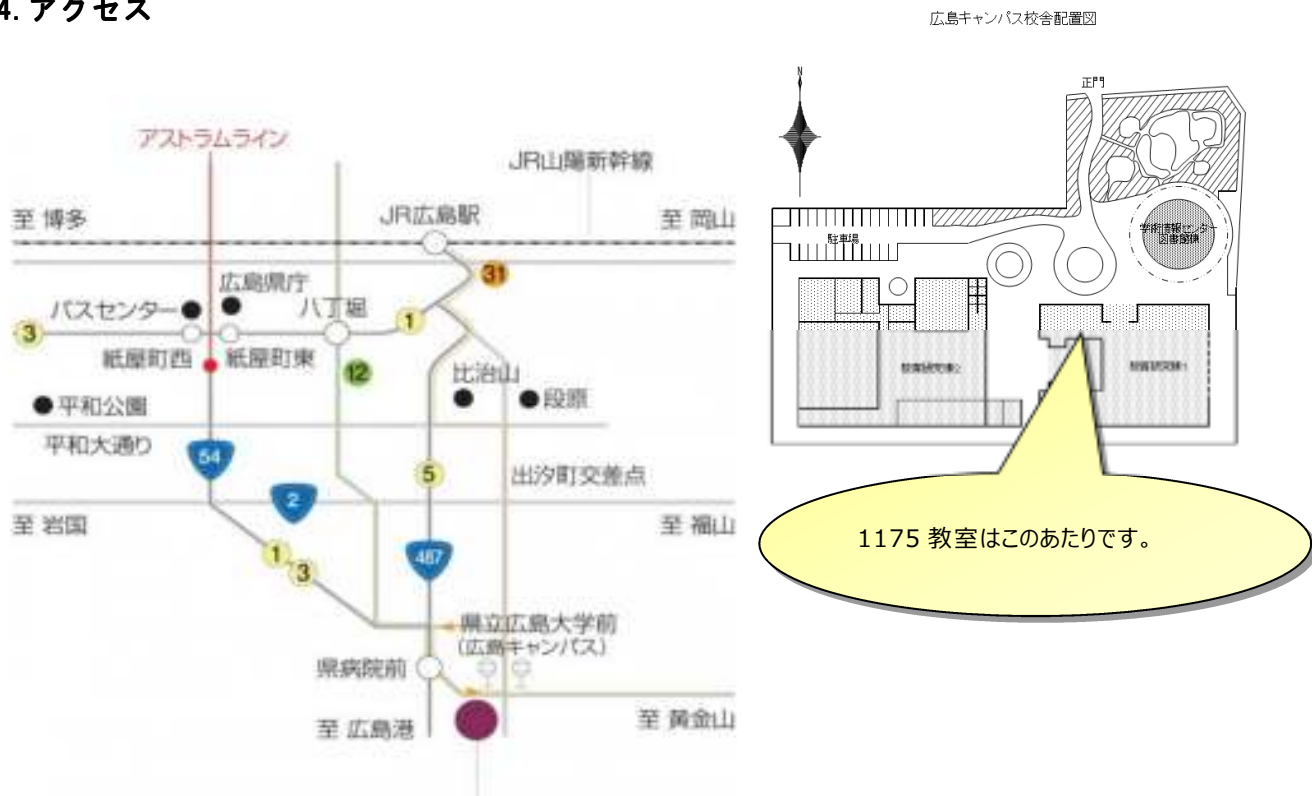
2. 場 所 県立広島大学(広島キャンパス)1175教室
(〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号)

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/47/access.html>

3. 議 題

2014年度活動報告, 2014年度会計報告, 2015年度活動計画案, 2015年度予算案 他

4. アクセス



【アクセス】

JR 広島駅から

● バス

「JR 広島駅(南口)」→JR 広島駅7番乗り場から広島バス「31号(翠町)線(広島バス「31号(翠町)線」時刻表)」に乗車(約20分)→「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車→徒歩1分

● 市内電車

・「JR 広島駅(南口)」→「5号線(広島港(宇品)行き)(時刻表)」に乗車(約20分)→「県病院前」下車→徒歩7分(県立広島病院の方へ道なりに進んでください。)

【お願い】お車で来られる場合は、学内に駐車場はございませんので、学外駐車場をご利用ください。ご不便をおかけいたしますが、何卒よろしくお願いいたします。

3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第37回研修会のご案内

総会に引き続き、次のような研修会が開催されます。たくさんの会員の方々のご参加をお待ちしております。事前の申し込み及び参加費は不要です。研修会の参加者ポイントは研修会の参加者ポイントは（1）区分1ポイント（3時間）です。

1. 日 時 2015年5月31日（日）14:00～17:00
2. 場 所 県立広島大学（広島キャンパス）1175教室（総会と同じ）
3. 講 師 青山新吾先生（ノートルダム清心女子大学人間生活部児童学科 講師）
4. テーマ 「エピソードで語る特別支援教育
～現場が「動く」とき、学校では何が起きているのか～」

概 要

平成19年に法制化された特別支援教育。特別支援教育コーディネータの指名や校内委員会の設置、個別の指導計画等の作成や外部専門家との連携等を核に、その推進が進められてきました。各学校園では、日々、誠実な努力がなされていると思います。にもかかわらず、現場からは「本当にいい方向に進んでいるのかな？」「効果があるのか？」といった声も聞かれます。また、同じように特別支援教育を進めてきているはずなのに、園や学校によってその取組や成果にも大きな違いがあるようにも思えます。そこで今回は、私が一緒に仕事をさせていただいた学校での先生方との協働の様子をエピソード語りで紹介し、その時現場で何が起きていたのか、それはどのような意味を成し、子ども達や保護者に反映していったのかを考えていきたいと思っています。皆様方のそれぞれのお立場で、現場が「動き」、子ども達や保護者が成長したり安心したりできるヒントを一緒に探れる時間を目指したいと思います。

※ 支部研修会についてのお問い合わせは支部事務局また info@jacdpcs.org までお願いいたします。

※ 支部研修会の参加費は500円です。参加の際には、ポイントノートとIDカードをご持参ください。お忘れになるとポイント付与できません。

4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第34回研修会のご報告

2014年10月5日（日）、香川県アルファあなぶきホールにて、中国・四国支部第34回研修会が開催されました。「分かって動いて参加を高める支援の工夫」というテーマで、武蔵博文先生（香川大学教育学部教授）によるご講演を賜りました。

前半では、「分かって動く」ためには主体的に活動することが必要で、主体的に活動するためには、「目的の理解」、「誤りへの気づき」、「遂行能力」、「修正能力」、「情動の調整」の5つの力を育てる必要性を説明していただきました。子どもが主体的に活動している様子であっても、手順だけ覚えていて「なぜ？どうして？」その活動をやっているのか分かっていない場合が多く、本当に主体的な活動をさせるためには、目的を理解させ、手順通りだけでなく、選択したり状況判断したりするような設定が大切であるというお話でした。また、「分かって動く」ための支援の工夫では、「参加の機会をつくる」、「支援環境を整える」、「人による支援を計画する」、「自ら使える支援ツールを工夫する」ということについてご教示いただきました。

後半は、「参加を高めるための支援の工夫」についてのお話になりました。子ども自身が「前向きに活動にチャレンジする」ためには、一人一人が習得した知識・技能を集団の中で活用・発揮し、自分の役割を果たすことが全体の発達につながり、集団で共通した目標を設定し、仲間同士で同じ価値観を共有するという「協同した学習」が大切であるという説明をしていただきました。その協同した学習の中でも、「評価・振り返り」が重要な活動であり、指導者や大人が子どもを評価するだけでなく、子ども自身が評価者として参加することで、次の活動へのモチベーションに発展するということでした。その他、「手順化」や「選択すること」にも話に移り、子どもたちの将来の社会参加と自立に向けて、我々の普段の支援を振り返るいい機会となりました。



参加者人数は 27 名、士会各支部主催の研修としての資格更新ポイントは 1 ポイント（3 時間）でした。

5 日本臨床発達心理士会 中国・四国支部第 35 回研修会のご報告



2014 年 12 月 21 日（日）、徳島県の四国大学において日本発達心理学会主催の四国地区シンポジウムと共催で中国・四国支部第 35 回研修会が開催されました。「災害に学ぶ発達支援と地域防災の必要性」というテーマで加藤孝士先生（四国大学生生活科学部 講師）が企画され、賀門康弘先生（郡山女子大学附属幼稚園 園長）から「保育の振り返りからみる福島の保育の現状と課題」、原田 新先生（徳島大学大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部 講師）から「福島県における学校支援活動」、田口太郎先生（徳島大学大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部 准教授）からは「四国・徳島における防災上の課題と取り組み」という演題で、それぞれ話題提供いただきました。それらを受けて、指定討論者の関口はつ江先生（東京福祉大学社会福祉学部 教授）からコメントと総括をいただきました。

賀門先生は保育の立場から、東日本大震災が発生した 2011 年 3 月 11 日から 2014 年までの 4 年間の福島県郡山市の保育の変遷について保育記録を分析し、除染を行うことにより被曝量を低減させ、子ども達が活動できる環境を作ること、「心の安定」と「体の発達」が保たれる環境を準備することが必要であると報告されました。原田先生は臨床心理学の立場から、一般的なストレス、PTSD などに触れた後、自身が福島県の学校で行ったストレスマネジメントについてお話いただきました。田口先生は工学の立場から、さまざまな自然災害に対して技術への過信をなくし、地域の伝承に再度注目し、その意味を理解し、自分たちでできることは自分たちの手で行う、つまり、自主防災意識を持つことが必要であることが述べられ、その上で、防災意識と町づくりについてご自身の活動経験を基に話題提供されました。

以上 3 名の話題提供後、指定討論者の関口はつ江先生からまず、日本保育学会放射能災害下の保育問題研究集会における 4 つの視点、福島県浜通りの私立幼稚園の実態報告、

福島県中通りの公立保育所の実態報告，北海道札幌市の災害支援活動報告，福島県子育て支援課の支援報告から，災害についての学びにつなげていくことの必要性について，以下のような具体的な指摘とまとめがありました。日常培っている地域，家族，個人の何を守り，優先するのか，緊急時に状況を理解するために，状況への想像力と他者の視点を持つことが重要であること。情報・施設種・設置主体（例えば，私立と公立，幼稚園と保育所など）の格差を解消するような規則の柔軟な運用（緊急時は区別なく全て同じになど）が必要であること。実態への向き合い方，つまり，状況の特殊性を相対化し（耐性をつける），異なる立場，価値観，能力であっても共存できる生き方の構築が必要であることです。災害が身近で起こった時に，私たちに何ができるか，何を備えるべきかについて考える，学びの多い研修となりました。

日本臨床発達心理士会の会員の参加者人数は 15 名，士会各支部主催の研修として資格更新ポイントは 1 ポイント（3 時間）でした。

6 日本臨床発達心理士会 中国・四国支部第 36 回研修会のご報告



2015 年 1 月 24 日（土），山口県立大学地域交流スペース Yucca にて，中国・四国支部第 36 回研修会が開催されました。「心理臨床の立場から不登校の子どもと保護者にどうアプローチしていくか」というテーマで大石英史先生（山口大学教育学部学校教育講座）によるご講演を賜りました。

不登校への対応は，学校だけでは限界があり，学校外の関係諸機関との連携を視野に入れた支援が求められます。しかし，現状では，長期的なスパンを見据えたいうで子どもと保護者の両者に地道にかかわっていく支援は十分とは言えません。そこで，本研修会では，心理臨床の立場から，不登校の子どもと保護者への支援のあり方についてご講義いただきました。会の前半は，現在の不登校の子どもが抱えている発達上の課題について，最新の知見を織り交ぜながら整理していただきました。後半では，保護者に対する支援，そして学校との連携等について実践事例を踏まえながら，共に考え，理解を深める時間がもたれました。「子どもを学校に行かせる」ことを目標とするのではなく，「子どもがより健康になるため」に周りの大人はできるところから支援を始めること，また，支援者が保護者の安心感・信頼感を得ることの重要性，教師の思いをいかに理解していくべきかなど，大石先生の多くの臨床経験を踏まえた中から，実践的な提案がなされ，参加者も自身の日々の実践と重ねながら，納得のいく学びを提供する場となりました。



参加者は 33 名ととても盛況でした。士会各支部主催の研修として資格更新ポイントは 1 ポイント（3 時間）でした。

7 支部よりお願い

○第 11 回全国大会について

冒頭の支部長挨拶においてもご紹介いたしました通り、2015年9月5日(土)、6日(日)に日本臨床発達心理士会第11回全国大会を広島国際会議場にて開催いたします。「地域でいかす持続可能な支援～とどける、つなげる、つづける～」をテーマに、現在中国・四国支部の大会準備委員で準備を進めているところです。

すでにみなさまのお手元に、大会第一号通信が届いているかと存じますが、事前参加の申込み締切が6月30日(火)となっております。比較的近い会場での開催で多くのポイントを取得するチャンスでもあります。支部会員のみなさまには是非ふるってご参加いただき、大会を盛り上げるために一役買っていただければ幸いです。

すでに大会ホームページ(<http://www.jacdp.jp/congress/>)より、参加申込み、実践研究発表申込み、実践セミナーBの企画申込みを受付けております。また、大会に関するよくある問い合わせ内容についてもホームページでご確認いただけますので、まずは、お問い合わせ前に、一度大会HPをご覧くださいませ。大会準備の円滑な進行にご協力をお願いいたします。なお、大会に関するお問い合わせにつきましては、大会専用の窓口がございますので、こちら(ステージユニオン広島:jacdp2015@jocdpcs.org)をご利用ください。

○2015年度からの中国・四国支部からのお知らせ等について

2015年度からは、中国・四国支部からのお知らせは、日本臨床発達心理士会の会員情報管理システムを使って行います。このシステムにまだメールアドレスを登録されていない方は、早めに登録をお願いいたします。登録されれば、中国・四国支部からの会報、研修会案内などの他に、日本臨床発達心理士会のメールマガジンも届くようになります。なお、中国・四国支部からのお知らせは、引き続きこの中国・四国支部ホームページにも掲載しますが、従来行っていたメールアドレスが未登録の支部会員宛の郵送によるお知らせは、原則として、2015年度以降は行わない予定です。

また、ご所属先の異動やご転居などに伴い、ご登録の会員情報について変更のある場合は、必ず日本臨床発達心理士会の会員情報管理システムにおいて変更を行ってください。

7 編集後記



支部長からのご挨拶にもありました通り、数年来活動を進めております国家資格「心理師(仮)」についても、今後の動向が気にかかるかと存じます。近々に行われます支部総会、支部研修会、9月に開催いたします全国大会など支部会員のみなさまにとりましても気になる話題について、最新の情報を支部ホームページ(<http://jocdpcs.org>)にてご覧いただけます。研修会などのご案内、支部会報のバックナンバーなども掲載しておりますので、こちらもぜひご活用ください。

また、支部への情報提供がございましたら、以下の宛先か事務局までお寄せください。

【宛先：yashima●hbg.ac.jp】※ご利用の際は、●を@に変えてください

(編集委員会)